

α klotho 遺伝子変異マウスの 低リン餌飼育による歯槽骨の組織異常回復

北海道大学歯学研究院硬組織発生生物学教室¹⁾・同 歯科矯正学教室²⁾・同 口腔診断内科³⁾・北海道大学病院⁴⁾

長谷川智香(助教)¹⁾・彦根久美子(医員)²⁾・土屋恵李佳(医員)³⁾
工藤 愛(研修医)⁴⁾・山本 恒之(准教授)¹⁾・網塚 憲生(教授)¹⁾

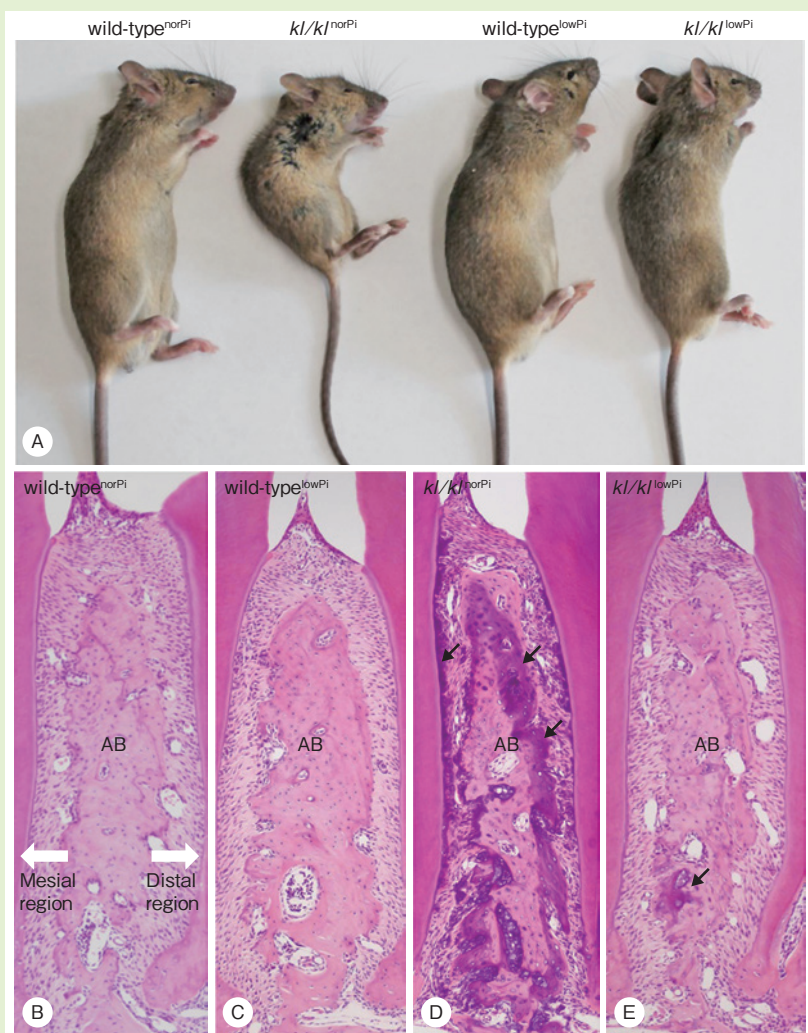


図1 通常餌または低リン餌飼育した野生型マウスと kl/kl マウスの全身像(A)と歯槽骨(B~E)

通常餌を与えた野生型マウス($wild\text{-}type^{norPi}$)および低リン餌を与えた野生型マウス($wild\text{-}type^{lowPi}$)ではマウス個体の身長に違いは認められないが、通常餌飼育の kl/kl マウス(kl/kl^{norPi})群に比べて、低リン餌飼育の kl/kl マウス(kl/kl^{lowPi})では、野生型マウスに近い身長を示す(A)。歯槽骨を観察すると、 $wild\text{-}type^{norPi}$ 群と $wild\text{-}type^{lowPi}$ 群では組織異常は認められないが、 kl/kl^{norPi} 群ではヘマトキシリンに濃染する部位(矢印)が観察される。一方、低リン餌飼育の kl/kl^{lowPi} 群ではヘマトキシリンに濃染する部位が減少し、組織異常の回復が示される(B~E)。

AB: 歯槽骨